

## 2021 年度事業報告書要旨

2021 年度も引き続き世界的に新型コロナウイルス感染症の影響下にあった。新たな変異株の流行とワクチンの普及が交錯し、日本国内では行動制限と緩和が繰り返された。

当協会の事業活動においては、新型コロナウイルス感染症による影響を受けつつも、感染予防対策と事業活動の両立を進めた。アイソトープ供給においては、将来利用が期待される核種の調達先の拡大や、新たな製品の供給を開始した。年度末にはロシア・ウクライナ情勢の影響を受け、放射性医薬品の一部製品に供給制限が発生したものの、頒布に関する緊急情報の迅速な発信等、国内の診療に支障をきたさないよう努力した。

調査研究・普及啓発では、各種イベント・講習会のオンライン化、当協会ウェブサイトの充実、機関誌への記事掲載等を積極的に推進した。

組織運営においては、法で定められた各種会議を適切に運営すると共に、会員への情報提供を適切に行った。仁科記念サイクロロンセンターの廃止措置作業を完了させると共に、本部 RI 施設の廃止措置作業も順調に進めた。また、将来に向けた取り組みとして、本部・研修施設建設準備室を設置し、新拠点の整備に向け第一歩を踏み出した。